

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0493600027
法人名	特定非営利活動法人なごみ
事業所名	グループホームポラーノの杜
所在地	宮城県気仙沼市所沢201-1
自己評価作成日	平成27年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

再建・移転からまもなく1年が過ぎようとしています。利用者様もようやく新しい環境に慣れ、ホーム前は防災集団移転用地として、徐々に新しい家も建ち始めて、地域の方がご家族様の相談や入居の申込みに来られることも増えてきました。また、同一敷地内にはぼらんデイサービスがあり、入居前に利用されていた方もおられ、行事やボランティア来訪時だけではなく、気軽に行き来することで馴染みの関係を維持しています。代表者は職員一人一人のスキルやメンタル面にも配慮した働きやすい職場環境の整備と意欲向上に努めています。また、認知症サポーター養成講座や震災被災者への友愛訪問事業等、地域への社会貢献にも力を入れています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは気仙沼市街地の西方の高台に移転して1年になる。同じ敷地内に同法人のデイサービスがある。周辺は造成中で民家は少ないが、近くにこれから50世帯の建物ができる予定である。ホームは「共に歩み寄り添う 願いに共感し叶えたい」の理念で入居者を主体に支援し、土いじり等それぞれやりたいことを楽しんでいる。ホームは陽気で懐メロの大きな歌声が響き賑やかである。職員との対話もお互い遠慮なく明るく本音で話し合い、家族のように生活している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成27年12月15日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームポラーノの杜

)「ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	勉強会を通して、全職員で介護理念を振り返る機会を持っている。法人共通のものとポラーノの杜独自の理念を作り、ケアの統一を図っている。	「願いに共感し叶えたい」等の理念で入居者の気持ちを尊重し、歌や土いじり等の要望に沿って支援している。お互い遠慮なく本音で明るくぶつかり合うこともあり、親身に世話し合う家族のように生活している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	積極的に挨拶を交わしている。地域の一斉清掃に参加やホームで行事を行う際には案内を配るなど、地域とのつながりを持ってよう努めている。	ホームは移転し間も無いので周辺に民家は少ない。災害ボランティアの療法士の訪問や住民の三味線演奏を楽しむなどしている。ホームの納涼会に案内を出すなど、地域に呼び掛ける努力をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトを受講した職員が認知症サポーター養成講座の講師を務めている。要請があればいつでも開催できる状態にある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、ご近所の方々にお声を掛け、開催を準備している。今後は定期的に開催できるよう目指していく。	参加メンバーは区長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族、入居者の予定であるが、移転後の業務に追われ運営推進会議が開催されていない。	運営推進会議の意義を理解し、実施して頂きたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険や生活保護の申請であったり仕組みについて、不明な点の相談を行っている。また、法人は介護サービス法人連絡協議会の事務局を担当し、市と一体となって地域ケア、災害協定等の課題に取り組んでいる。	入居者の生活保護の手続きの詳細について、家族と共に相談し教えてもらっている。法人は気仙沼市の「介護サービス法人連絡協議会」の事務局として、市の福祉活動の大きな推進力になっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の施錠を行わないだけでなく、利用者様の気持ちを大切に、その都度納得できるよう寄り添っている。ご家族様や姉妹事業所からも協力をいただきながら、面会や外出支援も行っている。	外出の希望等、行動を制約せず自由にできるよう支援している。車イスの人には、時々姿勢を変えるよう声掛けしている。入居者に「ちょっと待って」と言っていないか等、言葉使いによる拘束がないかにも留意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修会への参加や勉強会を通して、全職員の知識を深め、常に利用者様が安心して生活して頂けるよう意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まもりーぶを利用されている利用者様がおおり、勉強会の際に理解を深めた。外部の研修会にも積極的に参加するよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	当法人は入居申込み専用の窓口を設けており、担当者が入居相談の早い段階から丁寧に説明をしている。入居時も契約書や重要事項説明書を用いて時間をかけ、不安なくご利用して頂けるよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話連絡の際にはご本人様の様子をお伝えし、要望等もお聞きしている。ご家族様の思いや要望は記録に残している。	入居者から外出や買い物の希望が多く、土いじりをしたい希望もあり、それらに応じている。家族からホームにいつまでも置いて欲しいとの要望はあるが、入居者の状況により対応していくことを、家族と話し合っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングには代表者も出席し、意見に耳を傾けている。また、早急に対応が必要な提案や意見は管理者を通じて代表者に報告し、対応している。	毎月のミーティングを午後7時から実施している。入居者希望の草取り作業について、「隣家の敷地に入らないように」と「急な斜面からの転落防止」の意見がありフェンスやホーム駐車場の街灯も設置した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	子育て中の女性職員の労働時間の短縮や様々な条件の受け入れ、働きやすい職場環境や職員個々の意欲向上に対し、支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加を促している。また、勉強会を通してホーム内での伝達講習も行っている。介護福祉士や介護支援専門員の受験料も全額補助している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は宮城県グループホーム協議会や気仙沼市介護サービス法人連絡協議会、行政の研修に参加できる機会を設け、同業者と交流を推進している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入口の段階から入居専用窓口の担当者が、要望や心配事の把握、ホーム案内を丁寧に対応することで、利用時に安心してサービスを受けることができるよう努めている。入居の際もゆっくり時間を掛け、信頼関係を構築するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時から時間を掛けて伺っている。また、相談内容や介護の悩みについては記録に残し、入居の際には全職員が把握できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居判定会議では、代表者・管理者・入居相談窓口の担当者が話し合い、必要なサービスの見極めを行っている。入居後もご本人様、ご家族様の意向を常に確認し、必要な他サービスの検討、移行を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の得意なことやできることを見極め、活かせるよう努めている。一人一人に合わせた家事や役割を持って頂き、利用者様から教えて頂くことも多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が面会に来られた際は近況報告を行っている。また、外出支援にもご協力頂くなど、関係の継続に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	誕生会にはご家族様やご友人の方など馴染みの方をお誘いしている。入居前から通っているかかりつけ医を利用されている方も多く、ご自宅で生活されていた頃の関係性を維持できるよう努めている。	誕生会は友人にも声掛けしているが、まだ参加してもらっていない。今後声掛けを継続していく。馴染みの散髪のボランティアが2ヶ月に1回来る。入居者の、近隣との馴染みの関係づくりはこれからである。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールの席は利用者様の性格や相性を考慮し、関わりが持てるようにしている。全員で参加する行事やレク活動を考え、孤立せず交流できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族様と電話や手紙でお互いの近況報告をしている。以前入居されていた利用者様のご家族様がコーディネーターとして慰問を企画してくださった。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の話を傾聴し、希望に沿えるよう努めている。気持ちを伝えられない利用者様については、ご本人様の立場になって考えたり、ご家族様からも協力を頂きながら、思いが汲み取れるよう努めている。	外出や買い物希望が多く、対応し支援している。意思表示の出来ない入居者について、家族からの情報を参考に演歌を流すと大きな笑顔が見られる等、入居者の行動・表情を見ながら、思いを把握し支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴や趣味、嗜好等の情報をご家族様に記入して頂いている。入居後も、ご本人様やご家族様から得た情報をもとに馴染みの生活を継続できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間の流れに沿った生活記録と排泄チェック表を活用し、その方の一日の過ごし方が把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングや日々の業務の中でもモニタリングを含め職員間で話し合い、プランを作成している。	日々の職員の会話や記録を集約し、管理者と計画担当者がモニタリングし、計画に反映する。入居者の希望の土いじりや洗濯物たため、洗濯物干し等を計画に取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録、排泄チェック表、業務日誌に記載している。毎日の小ミーティングや毎月の全体ミーティングを通して共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の言葉やその時々思いを考えながらニーズを把握するよう努めている。地域のお祭りや選挙の投票にも個別で支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアを積極的に受け入れている。OT・PTに教えて頂いた体操や運動を実践し、心身ともに楽しく生活して頂けるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全利用者様がご本人様やご家族様の意向に沿ったかかりつけ医である。受診した際は受診記録簿に記載し、全職員へ周知している。また、受診した際はご家族様に報告を行っている。	かかりつけ医受診時は、入居者の、バイタル、体重、食事、排泄、入浴等の「総合グラフ」と、最近の様子の記録を持参している。受診後は家族から結果を聞き、受診記録を整理する。緊急時は協力医を受診する。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当事業所には看護師がおり、状態についてはその都度相談できる状態にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された際は情報を提供している。可能な限りお見舞いをして情報を把握するよう努めている。地域医療連携室と連絡・調整を行って、退院後も安心してホームで生活できるよう備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には看取りの指針を説明し、ご本人様やご家族様の意向をできるだけ早い時期に確認するよう努めている。勉強会等を通して、終末期について職員間で意見交換する機会を設けている。	看取りに関する医療との連携がとれていない。重度化した場合は、入院や特養への入所等について、家族や医師と一緒に話し合っている。ホームは看取りについて勉強会を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変時に備えてマニュアルを作成している。勉強会等を通して、全職員が緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防立会いのもと避難訓練を行っている。防火設備についても専門業者が定期的に点検している。ご近所様への呼びかけや非常食を常備し、災害に備えている。	年2回の訓練をしている。「入居者の避難済み」は名札を裏返す。夜間想定訓練では、夜勤者以外の職員が手伝う場面があり、その反省や最適な避難経路の検討をし、次の訓練に反映し改善を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレにお誘いする際は小声でさり気なくお声掛けしている。排泄に失敗された際も、ご本人様の自尊心を傷つけないよう配慮し、支援している。	名前に「さん」付けで呼んでいる。排泄を失敗した時は、「衣服を交換しましょう」等と遠回しに話し掛ける。トイレに誘導する時も、散歩に誘い「今トイレ空いていますから入りましょうか」等の声掛けをする。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の何気ない言葉にも耳を傾け、思いを汲み取れるよう努めている。なるべくご本人様に選択して頂けるような質問を心掛けながら働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の希望については、その都度話し合っている。その日に対応が難しくても、早い段階で希望に応えられるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	認知症が進行し、おしゃれに関心がなくなった方についても、ご本人様の生活習慣が継続できるよう、お化粧品や身だしなみ支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な調理を手伝って頂いたり、利用者様各々の能力に合わせながら一緒に行っている。利用者様のリクエストを取り入れながら献立を調整したりしている。	栄養士が献立を作成し、食材は入居者と買い出しする。すいとんやちらし寿司が好きで、おやつのおしるこ等甘い物が好物である。ちらし寿司等は行事食や外出時に食べるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎食チェックしている。摂取量が少ない方には補食等を提供し、栄養の確保に努め、体重の変動にも配慮しながら栄養管理をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアを行っている。利用者様に合わせ、歯ブラシや口腔ティッシュ等使い分けている。必要時、訪問歯科をお願いし、助言を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自ら訴えがない利用者様についても、排泄パターンやその日の水分摂取量を確認しながら排泄支援を行っている。また、サインを見逃さないよう努めている。	座っていても落ち着かない様子からトイレのサインと把握する。オムツは2名で、ほぼ自立が1名、他はリハビリパンツとパッドである。リハビリパンツの人で、声掛けでほぼ失敗なく生活している人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前のおやつの際に牛乳を提供している。下剤を服用されている方もいるが、排便パターンを把握し、温タオルで腹部を温める等薬だけに頼らないよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は定めておらず、毎日希望があった方にはできる限り応じている。入浴が難しい際も清拭等満足が得られるよう努めている。入浴時間もその方の希望やペースに合わせて対応している。	週に3~4回入る。女性には女性職員が対応する。入浴剤を選んだり一緒に歌を歌ったりして入浴を楽しむ。入浴を洗る人には時間をずらしたり、多くの職員が声掛けを応援し雰囲気を盛り上げる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを把握しながら、利用者様のペースに合わせて休んで頂いている。各居室に温湿度計を設置し、快適に休んで頂けるよう温度管理にも努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時に医師や看護師、薬剤師から受けた服薬の注意点については個別の受診記録に記載し、確認している。毎日の申し送りでも伝え、全職員へ周知している。与薬の際は二人での確認を基本とし、誤薬の防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外仕事が好きな方には一緒に施設周囲の草取りや計算が得意な方には計算プリント、塗り絵が好きな方には塗り絵をと、各々に合わせたレク活動の提供や、花の手入れ等役割を持って生活して頂けるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様の協力も得ながら馴染みの場所へ出掛けられるよう支援している。また、希望が聞かれた際には日程調整をしながら支援できるよう努めている。	重度化している人もいるが、行事的な外出の、花見、港祭り、紅葉狩り、りんご狩り等に出掛けている。家族にも多く参加してもらえよう調整している。馴染みの外出場所として、自宅や美容院に行くこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はお金を自己管理されている方はいませんが、以前希望があった方については、ご家族様にもご理解頂き所持されていた。所持金については定期的に職員と確認したり、お小遣い帳を作成して紛失防止に努めた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年ご本人様の希望を聞きながら年賀状を出している。書くことが難しい方については職員が代筆している。また電話の希望についても対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やホールには日常の写真を飾っている。また、季節を感じられる装飾を心掛け、その時その時に利用者様と一緒に飾りつけを行ってている。	食堂に手製のカレンダーや動物の縫いぐるみが多く置かれている。職員と作ったクリスマスツリーを飾っている。食堂のソファや和室で寛いだり、好きな人同士が呼び合って会話を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは好きな場所を選んで頂いたり、利用者様同士の相性等を配慮した食席はご自分の居場所として定着している。気の合う方同士が談笑されたり、思い思いの場所で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の写真を飾られている利用者様が多い。ご家族様の希望も取り入れながらご本人様が居心地良く過ごせる居室づくりをしている。	クローゼット、タンス、ベッドが備えつけである。家族の写真を飾ったり、自分の作品の塗り絵や習字を飾っている。ベッドの位置や向きも自宅の環境に近いよう配慮し、自分の部屋とし寛いでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は自宅で過ごされていた頃の環境を参考にしている。その方の身体機能に配慮しながら、馴染んでいただける環境整備に努めている。		